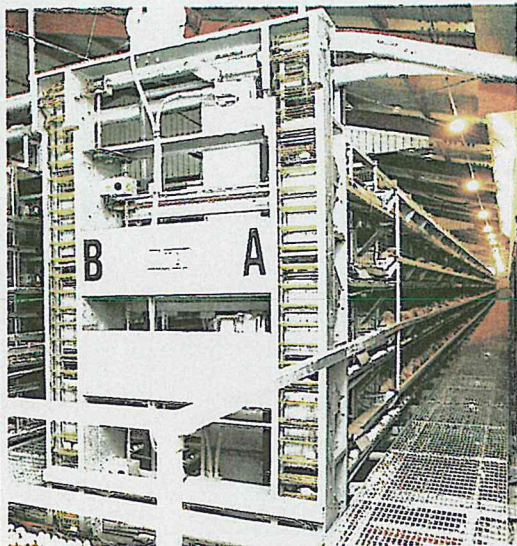


ハイテム、東南アジア拡販

養鶏機器、代理店網構築



ハイテムが海外販売に力を入れる直立ベルトケージシステム

養鶏機器製造のハイテム（各務原市テクノプラザ、安田勝彦社長）が、東南アジアへの機器販売を強化している。人件費高騰で省人化が加速すると見込まれる6カ国に絞り、1カ国1社と代理店契約を締結。既にタイやベトナムの農場から約6億円の受注があり、6月から順次納入する。日本市場が頭打ちの中、主力工場を置く中国だけでなく、東南アジアでの販売を軌道に乗せ、事業基盤を安定させる狙い。

（宮本寛）

シェア20%目指す

売り込むのは、直立化が進行し、今後の需要が見込めるとして、ベルトケージシステムなど採卵養鶏業向けのオートメーション機器。タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、バングラデシュ、インドの6カ国に1社ずつ代理店を置いた。いずれも養鶏業の自動化20%を目指す。既に

各国から商談先が本社を訪れており、フィリピンでも今年中ごろに2億円規模の受注がまとまりそうだ。中国では、優良な養鶏業者を売り先に絞ってシェア10%を目標に掲げる。ハイテムは国内シェア

60%を誇る養鶏機器のトップメーカー。今後もシェア拡大を進めるが、国内市場自体は成長が見込みづらいため、海外市場への期待は大きい。2013年9月期の単体売上高は30億円、中国の子会社スターハイテムは約2億円。

安田社長は「東南アジアでは日本ブランドへの信頼は厚く、営業活動は順調。5年後をめどに中国と東南アジアを合わせた海外売上高を20億円規模に育てたい」と話している。